ふるさとの自然 ―――― 62

大きな声で鳴く オオヨシキリ

○ヨシ原のあるじ

オオヨシキリはスズメより一回りほど大きく、全身が茶色の鳥です。５月の連休のころに東南アジアなどの南の国から、ヨシの群生した池や沼、河川敷、休耕田などに渡って来ます。ヨシの先端に止まって大きく口を開け「ギョシ、ギョシ、ギョギョシ、ギョギョシ」と大声で鳴くので、昔から行行子（ぎょうぎょうし）と呼ばれて親しまれています。一日中ヨシ原で暮らし、草むらにすむ昆虫などを食べています。利根川の河川敷などに多くすんでいますが、市内でも見ることができます。

○タフな雄

春になると、まず雄が先に渡って来て大きな声でさえずります。昼間だけでなく夜も鳴き続けて、子育てのための縄張りを確保し雌を待ちます。巣は敵に見つからないよう、生い茂ったヨシ原の奥に作ります。地上１～２mの高さに枯れ草やヨシの葉を細かく編み、何本かのヨシにまたがったつぼ型の巣を作ります。ちなみにオオヨシキリは一夫多妻制で、一夫五妻の例もあるそうです。

（旭市文化財審議会委員　齊藤敏一）